



令和7年度コミュニティ・スクール運営状況について

加賀市では子どもたちの豊かな学びや成長を支えるために、学校と地域が連携・協働するためのコミュニティ・スクール(以下CSと略)が市内全ての小中学校・義務教育学校に導入されています。その運営状況を以下に報告します。

教職員アンケート結果から(回答数299)

Q1「保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだと思う」

・あてはまる	58.8%(昨年度)→	65.8%(今年度)
・どちらかといえば、あてはまる	38.6%	32.6%
・どちらかといえば、あてはまらない	2.2%	1.7%
・あてはまらない	0.0%	0.0%

Q2「地域の人と協力することで、自分の授業の内容の向上につながったことがある」

・あてはまる	29.2%	→ 28.0%
・どちらかといえば、あてはまる	47.7%	47.2%
・どちらかといえば、あてはまらない	16.5%	16.8%
・あてはまらない	6.5%	8.0%

Q3「CSによる学校支援ボランティアのサポートにより、業務負担が軽減されたと実感できた」

・とても実感できた	17.0%	→ 18.3%
・少し実感できた	44.2%	40.7%
・あまり実感できない	27.9%	30.2%
・ほとんど実感できない	10.9%	10.8%

CSコーディネーターアンケート結果から(回答数22)

Q4「学校運営の基本方針の承認にあたり、学校運営協議会委員による議論が行うことができた」

・あてはまる	77.8%(昨年度)→	81.8%(今年度)
・どちらかといえば、あてはまる	22.2%	18.2%
・どちらかといえば、あてはまらない	0.0%	0.0%
・あてはまらない	0.0%	0.0%

Q5「学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある」

・あてはまる	63.2%	→ 59.1%
・どちらかといえば、あてはまる	36.8%	36.4%
・どちらかといえば、あてはまらない	0.0%	4.5%
・あてはまらない	0.0%	0.0%

Q6「地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある」

・あてはまる	21.1%	→ 31.8%
・どちらかといえば、あてはまる	47.4%	36.4%
・どちらかといえば、あてはまらない	31.6%	31.8%
・あてはまらない	0.0%	0.0%

〈令和7年度 成果と課題〉

ほとんどの教職員が保護者や地域の方々の学校運営に関わっていただくことへの意義を認める中、「授業の内容の向上につながった」と肯定的に回答した教職員は75.2%でした。また、「業務負担が軽減されたと実感できた」と回答した教職員は59.0%でした。これらの数値は昨年度とほとんど変わっておらず、今後もCSを推進し、授業や学校行事などに地域の方々に積極的に参画・支援していただく必要があります。

また、学校側の提案を承認するだけでなく、運営協議会側から建設的な提案を行うことができていた学校が、ほとんどの学校で行えている状況でした。このことは、CSの取組が3年目を迎え、学校運営協議会の中で「熟議」できる環境があることを示しています。しかし、地域住民からCSに意見や提案が持ち込まれていない学校が昨年度同様3割程度ありました。これは、CSと地域との結びつきを改善する余地があることを示しています。

R8年度は、CSの取組を地域の中でさらに充実させていく必要があります。